

## 1. 評価結果概要表

平成 20 年 5 月 23 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170504054		
法人名	社会福祉法人 ノテ福祉会		
事業所名	グループホーム ごきげん清田		
所在地	〒004-0002 札幌市清田区清田1条4丁目3番16号 (電話) 011-887-5511		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年5月23日

## 【情報提供票より】(平成20年3月24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18 年 3 月 31 日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤13人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.5人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	地下1階 地上2階建ての1階～ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	110,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円		
敷 金	<u>有</u> (110,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要 ( 4 月 10 日現在 )

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 60 歳	最高 98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院・札幌明佳クリニック・あの歯科医院 あしりべつ病院
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は母体組織の理念である「守ります、あなたらしさを、いつまでも」を支援の中心に掲げ実践している。自室でパソコンを使用、近隣の喫茶店で寛ぐ、母体組織内の他施設の温泉利用、入浴日自由など個人の要望を尊重して、その人らしく暮らせるよう支援している。管理者を中心に職員が一体となってターミナルケアも行っている。事業所独自の「ルール・ブック」を作成して、職員研修や日々のケアに活用されるなど質の向上に積極的に熱意をもって取り組んでいる。リサイクル活動(リングプル)を通じて児童会館の児童の定期的訪問などあり、地域密着型サービスの向上が更に期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題である「地域との付き合い」は小学校、児童会館の児童との交流、地域行事に参加、事業所のごみステーション開放、事業所の機関紙を町内回覧されるなど地域交流を図っている。災害対策は避難訓練を年に2回実施、救命救急講習も全職員が受講して改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を行い検討し、出された結果に基づき、運営者、管理者、介護計画作成者が中心になり、自己評価の意義を確認し作成、更なる質の向上に活かせるよう努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2回開催、事業所の概要、活動状況、ヒヤリ・ハット事故報告、外部評価等について報告。出席者からは多くの質問が出され、質問に対して具体的に回答して今後活かすよう取り組んでいる。議事録も整備されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 母体組織が全利用者家族にアンケート送付して意見、苦情、不安を把握している。当事業所はアンケート結果に基づき家族の意見が反映されるよう努めている。また、職員は家族が意見、苦情をしやすいよう信頼関係を築いている。「ごきげん清田だより」を発行し、個別にコメントを添え送付し、電話でも報告するなどして家族が安心できる支援をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会して地域の行事に参加している。小学校、児童会館との交流、高齢者住宅の雪はねボランティアをする、ホーム設置のごみステーションの使用をしてもらうなど地域交流を目指す取り組みが行われている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の法人理念があり重要事項説明書に明記されているが、事業所独自の理念はつくられてはいない。	○	地域密着型サービスとして事業所が目指す独自の理念をつくることが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時研修では法人理念を伝え、職員は理解し共有に努めている。日々のケアの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して地域の行事に参加している。喫茶店や小学校、児童会館の児童との交流、近隣住民と家庭菜園の作物を交換することもあり、地域の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解して、サービスの質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催している。事業所の概要、活動状況、ヒヤリ・ハットの事故報告、外部評価などについて報告し、参加メンバーからの卒直な意見や質問を受け、会議を通じてサービス向上に活かすよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険以外にも、運営やサービスの課題解決に向けて、担当者と面談をし連絡を取っている。担当者が事業所に訪問することもあり、情報交換をしながら連携している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ごきげん清田だより」の他に一人ひとりにコメントを書いて写真を添えて近況報告しているが、家族の状況に合わせて電話・FAXも活用している。家族来訪時には声をかけ積極的に情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体組織が、お客さまアンケートを作成して家族に送付し、率直な意見の把握ができる仕組みとなっている。事業所内の意見などは「ヒヤリ、ハット」として捉え、改善に努め運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体組織内の異動には、普段の関わりも含め利用者のダメージを防ぎ、影響がないような配慮に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織内研修の他に事業所独自の「ルールブック」を作成して、それに基づき質の確保、向上に向けた育成に努めている。働きながら資格が取れる体制が整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区の連絡会で同業者との交流があり、情報交換をしてサービスの質を向上させている。連絡会の会場として当事業所の会議室を使用して頂くなど、連携を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に職員が自宅を訪問したり、事業所を見学してもらうなどして、徐々に馴染んでもらい安心感をもってサービスを利用できるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所での生活が特別なことではなく、家庭での生活に近づけることを基本として、利用者から学び、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの要望の把握に努め、自宅訪問、パソコン使用のためのボランティア導入など本人本位の支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「自分らしさ」をケアの基本として本人、家族の思いや意見を伺い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、利用者の状況により3ヶ月から6ヶ月を基本に行っている。職員間の情報交換は常に行っているが、ケアプラン会議は行っていない。	○	全職員でカンファレンスやケアプラン会議を行い情報や気づきを話し合い、新たな介護計画を作成することが望まれる。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助、一時帰宅の送迎や喫茶店への送迎など、その時々々の要望に応じて柔軟に支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医による診療が受けられるように、職員が通院介助している。協力医による訪問診療時の受診介助も利用者の希望に沿って行い、医療関係者と連携を密にして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは本人、家族の希望に沿い、具体的な対応指針を定め話し合いを行い、ケア方針を共有し支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は「ルールブック」に基づき職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方もプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭での生活の継続を目指し、事業所での生活も時間による制約がないように、本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も取り入れ作っている。調理、片付け、茶わん拭きなど一人ひとりの力量に合わせ、職員と一諸に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間、入浴日は決めていないので、利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。母体組織内の温泉のある施設で入浴する機会もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望を把握して、一人ひとりの力が発揮できる場面作りをして、楽しんで気晴らしできるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調を考慮しながら散歩、買い物、喫茶店、温泉など戸外に出ることを積極的に支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。利用者が外出しそうなときは一緒に歩き、安全面に配慮しながら自由な生活ができるように支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回行い、消火器の使用訓練も行っている。計画、実施、評価の記録もある。近隣住民には訓練することを伝えて実施している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェックし職員は情報を共有している。食事摂取状態に応じ、見守りや声かけをして栄養摂取できるように支援している。		
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には食卓テーブルやソファの配置もよく台所のカウンターも広い。壁面の展示も落ちついた絵や書が掲げられ、利用者が安らぎ居心地よく過ごせる場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある私物が持ち込まれ、家具の他にもテレビ、ラジカセ、パソコンなど利用者がその人らしく過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。